

地域医療支援病院 ってなんだろう？

地域の医療機関

診療所・クリニック、
病院など



行田総合病院

- 高度・専門医療の提供
- 救急医療の充実
- 地域医療連携の推進
- 医療従事者の育成支援



介護・福祉施設

介護施設、
訪問看護ステーション
など



行政・地域包括支援センター

地域包括支援センター、
市町村、保健所など



地域のみなさん

患者さん、ご家族、
地域住民



地域の病院や診療所を支えながら、高度な医療や救急医療を提供する病院です。地域の医療・介護機関と連携し、患者さんが必要な医療や支援を切れ目なく受けられるよう支えています。

地域医療を支える4つのポイント

高度・専門医療の提供



地域の医療機関では対応が難しい患者さんを受け入れ、高度な検査や治療、専門的な医療を提供します。

救急医療の充実



24時間365日の救急医療体制を整え、地域の医療機関と連携しながら、緊急時にも迅速に対応します。

地域医療連携の推進



病院や診療所、介護・福祉施設などと連携し、入院から退院後まで切れ目のない医療・支援につなげます。

医療従事者の育成支援



地域の医療従事者を対象とした研修や情報共有などを通して、人材育成と地域全体の医療の質向上を支えます。



声をかけていただき、地域連携の担当者だけでなく、看護部のトップマネジャー同士も

「顔の見える関係」が地域の医療をつないでいく
地域医療は、一つの病院だけで完結するものではありません。病院や訪問看護ステーション、介護施設などがつながることで、患者さんが安心して地域で暮らし続けられる環境が生まれます。私は以前、埼玉県看護管理者会の活動に携わり、地域ごとに看護管理者同士が「顔の見える関係」をつくることに力を入れてきました。当院へ着任した際にも、地域の看護管理者の方々が訪ねてくださり、「一緒に連携していきましょう」と声を掛けていただきました。

Hospital Date

行田総合病院

〒361-0056 埼玉県行田市持田376
TEL: 048-552-1111 担当: 採用課

Hospital Information

患者さんの一番近くで、その人らしい暮らしを支える看護師。行田総合病院では、多職種や地域と力を合わせ、看護を通して地域医療に貢献しています。あなたもここで、地域を支える看護を学びませんか。

地域医療の要！

地域ケアミックス病院が拓く未来

行田総合病院

超高齢社会を迎え、病院には治療だけでなく、患者さんの退院後の暮らしまで地域とともに支える役割が求められています。急性期から回復期、在宅まで幅広い医療を担う行田総合病院。地域や多職種とつながりながら実践する看護の役割と、地域医療の魅力について看護部長に伺いました。



看護部長
佐川 みゆき さん

地域とともにあゆみ続ける行田総合病院

1988年開設。救急・高度医療から回復期、在宅まで幅広く担う地域医療支援病院です。[24時間365日継続する医療。断らない医療]を柱に、地域との絆を大切にしながら、人々の健康と安心して暮らせる街の未来を支えています。



入院したその日から、その先の暮らしを見つめる

地域医療で大切なのは、病気を治すことだけではなく、患者さんが退院後もその人らしい生活を続けられるよう支えることです。当院では、入院前から退院後を見据えた支援を始めています。入院支援を担当する看護師が生活背景や家族構成などを聞き取り、その情報を入院先の病棟へ。病棟では治療の経過とともに情報を加え、退院後に必要となる支援を考えていきます。

病気によって、それまでの生活に制約が生じることもあります。自宅に戻ったとき、どのような生活を送り、家庭や地域でどんな役割を担っているのか。患者さんを「生活する人」として捉え、一人ひとりに合った支援を考えることが大切です。

急性期から在宅まで、患者さんの変化を学べる

行田総合病院は、急性期から回復期、慢性期、在宅支援まで幅広い医療を担うケアミックス病院です。一人の患者さんが治療を受け、回復し、再び地域へ戻っていく一連の過程を学べることは、当院で働く大きな魅力です。私自身、急性期病院での経験が長かつ

たからこそ、当院に来て「患者さんのその後を知る」ことの大切さを実感しました。院内では急性期から回復期・慢性期への異動の機会があり、異なる領域を経験することができ、「院内留学」で他部署の看護に触れ、患者さんの回復過程や生活を多角的に学ぶ機会もあります。疾患や治療だけではなく、その先にある暮らしまで考えられる。それはケアミックス病院だからこそ得られる学びだと思っています。

患者さんを一番近くで支える看護師だからできること

患者さんの生活を支えるには、MSW（医療ソーシャルワーカー）やリハビリスタッフ、医師、薬剤師など、多職種との連携が欠かせません。その中で、看護師には「調整役」になってほしいと考えています。看護師は24時間365日、患者さんの最も近くで関わる存在です。当院ではプライマリナーシングを取り入れており、「この患者さんのことは私が一番よく知っている」と自信を持って関わり、日々の変化や思いに必要な専門職へつない



互いを知り、相談できる関係をつくる。こうしたつながりが病院や施設の垣根を越えた連携をスムーズにし、地域で暮らす患者さんへのより良い支援につながっていくのだと思います。

地域全体をチームに、患者さんの未来を支える

地域医療では、入院中だけでなく退院後の暮らしまで視野を広げることが求められます。当院には、多職種や地域の仲間と支え合い、それぞれの専門性から学べる環境があります。急性期から回復期、慢性期、在宅まで患者さんの一連の経過に触れながら、自分が大切にしたい看護を見つけていく。多くの仲間と力を合わせ、患者さんのその先の人生まで考えられる看護師へ。地域医療を支える当院で、そんな看護師に成長してほしいと思っています。